

平成 27 年度

病害虫発生予報第 1 号

平成 27 年 4 月 23 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/boiyosyo/>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	6
4. 予察項目の見方	10
5. 今月のトピックス(カンキツの黒点病について)	11
6. 気象のデータ	12
7. おしらせ	14

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 作物

イネでは、イネミズゾウムシの発生時期は**平年並**、発生量は**やや多**と予想されます。発生状況に応じて防除を行い、常発圃場では、箱施用剤による予防を行ってください。

コムギでは、赤かび病の発生量は**やや多**と予想されます。開花期から乳熟期にかけて感染するので、開花始めから開花盛期が防除適期です。開花前の防除は効果が劣るので注意してください。

2) 果樹

カンキツでは、そうか病、かいよう病(温州みかん)は**平年並**、かいよう病(中晩柑)の発生量は**やや少**、ミカンハダニの発生量は**少**と予想されます。

ナシでは、黒星病の発生量は**やや多**と予想されます。降雨の情報に注意し、防除適期を逃さないようにしてください。赤星病、ハダニ類、アブラムシ類の発生量は**平年並**と予想されます。

果樹共通では、果樹カメムシ類の発生量は**やや多**と予想されます。越冬量が多いため、圃場内をよく見回り、早期発見に努めてください。防除は飛来を確認してから実施してください。

3) 茶

チャでは、カンザワハダニ、チャノコカクモンハマキの発生量は**やや多**と予想されます。カンザワハダニは多発を認めた圃場では防除しましょう。チャノコカクモンハマキの防除適期は 5 月中旬頃です。多発を認めたら防除しましょう。クワシロカイガラムシ、チャノホソガの発生量は**平年並**、チャノキイロアザミウマの発生量は**やや少**と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、ハダニ類の発生量は**やや多**と予想されます。圃場内をよく観察し、寄生密度が高くなるように防除を行ってください。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						4月		5月		
						下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ	イネミズゾウムシ	平年並	やや多	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 近年、実害は少ないので、移植後の発生状況に応じて防除してください。 2) 常発圃場では、箱施用剤による予防を行ってください。
コムギ	赤かび病	—	やや多	中	高					<ol style="list-style-type: none"> 1) 病害虫防除技術情報第1号(4月16日発表)。 2) 病害虫発生予察注意報第1号(4月23日発表)。 3) 開花期から乳熟期にかけて感染するので、開花最盛期が防除適期です。開花前の薬剤散布は防除効果が劣ります。 4) 出穂および開花状況を把握し、適期防除を行ってください。 5) 曇雨天が続くと被害は増加するので天候の推移に注意し、曇天または降雨が続く場合は追加防除を行ってください。
カンキツ	そうか病	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 県予察圃(御浜町)では、本年の春葉での初発は4月13日(平年4月18日)とやや早い状況です。 2) 発芽期の防除を実施することで、その後の発生を抑えることができます。 3) 新葉に病斑が見られる圃場では、その後果実へ感染しますので、幼果期の防除を計画してください。
	かいよう病	—	温州平年並 中晩柑やや少	温州小 中晩柑小	温州低 中晩柑普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 越冬病斑が見られる圃場では、新葉や幼果へと感染していくので、初期の予防散布がポイントです。 2) 越冬病斑が多い圃場では、伝染源となる発病葉及び発病枝は除去し、圃場外で処分してください。 3) 3~4月に防除を実施していない圃場では、5月に防除を実施してください。
	ミカンハダニ	—	少	小	低					<ol style="list-style-type: none"> 1) 冬期にマシン油乳剤を散布していない圃場では、新梢伸長期に急増することがあるので注意してください。 2) 発生量は圃場によるばらつきがあるので、発生状況をよく観察してください。 3) 成虫が1葉当たり0.5~1.0頭になったら防除を計画してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						4月	5月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
ナシ	黒星病	—	やや多	中	普通	発病密度				<ul style="list-style-type: none"> 1) 昨年の発生が多かった圃場では、天気予報の降雨の情報に注意し、防除適期を逃さないようにしてください。 2) 発病が確認されたら追加防除を行ってください。
	赤星病	—	平年並	小	普通	ビャクシン類の冬孢子発芽			ナシの発病	<ul style="list-style-type: none"> 1) カイツカイブキ等の枝葉に生成された病原菌が飛散して、ナシに感染します。 2) 病原菌は雨中の風によって飛散し、主に降雨中に感染します。
	ハダニ類	—	平年並	小	普通	成ダニ密度				<ul style="list-style-type: none"> 1) 発生が見られる圃場では、低密度のうちに防除してください。
	アブラムシ類	—	平年並	小	普通	ナシノアブラムシ	ナシミドリオオアブラムシ		ワタアブラムシ ユキヤナギアブラムシ	<ul style="list-style-type: none"> 1) アブラムシ類は初期の寄生を見つけることが重要です。 2) 寄生葉付近はアリが活発に活動しているので、アブラムシ発見の目安になります。
果樹共通	カメムシ類	—	やや多	中	普通	トラップ誘殺数	ツヤアオカメムシ	チャバネアオカメムシ		<ul style="list-style-type: none"> 1) 本年は越冬量が多いため、圃場をよく見回り、早期発見に努めてください。 2) 山林に近い圃場や過去に多数飛来があった圃場では、飛来に注意してください。 3) 果樹カメムシ類は、4月はウメ、5月はナシ、ビワ、モモに飛来します。 4) 防除は圃場及び圃場周辺(街灯への夜間飛来など)への果樹カメムシ類の飛来を確認して行ってください。 5) 一旦飛来すると連続して飛来することが多いので、防除実施後も注意してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消の一例				防除の注意事項		
						4月		5月				
						下旬	下旬	中旬	下旬			
チャ	カンザワハダニ	—	やや多	中	普通	成ダニ密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 病害虫防除技術情報第3号(4月21日発表)。 2) 葉裏に生息していますので、葉裏に十分かかる様に薬剤をていねいに散布しましょう。 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避けましょう。 4) 天敵への影響の小さい薬剤を選択しましょう。 	
	チャノホソガ	—	平年並	小	低	成虫密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 新芽に産卵します。萌芽が早かったため、若齢幼虫の多発が認められた圃場では防除しましょう。 2) 病害虫防除所のホームページにフェロモントラップ誘殺状況を掲載していますので参考にしてください。 	
	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	小	低	成虫密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 有効積算温度による予測式では、第1世代成虫の発生最盛期は5月第5半旬頃です。 	
	クワシロカイガラムシ	—	平年並	中	普通				第1世代成虫密度			<ol style="list-style-type: none"> 1) 有効積算温度による予測式では、孵化最盛日は平年より4日ほど早く、防除適期は5月第5半旬頃と予想されます。 2) 天敵保護のために、天敵への影響が小さい薬剤を選択しましょう。 3) 孵化時期に散水により枝幹を濡らすことで歩行型幼虫の固着を防ぐ効果があります。
	チャノコカクモンハマキ	—	やや多	小	普通	成虫密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 幼虫は孵化数日後に葉を2~3枚綴るようになるので、薬が効きにくくなります。孵化直後の若齢幼虫を対象に防除しましょう。 2) 例年、第1世代幼虫の発蛾最盛期は5月第1半旬です。この7~15日後の幼虫孵化期(5月中旬頃)が防除適期です。 3) 病害虫防除所のホームページにフェロモントラップ誘殺状況を掲載しているので参考にしてください。 	

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活長の一例				防除の注意事項
						4月	5月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
イチゴ	ハダニ類	-	やや多	中	普通	成ダニ密度 				<p>1) 圃場によって発生にばらつきがあります。こまめに圃場を観察し、発生状況を確認してください。</p> <p>2) 薬液がかかりやすくなるよう、不要な下葉を除去し、葉裏にもかかるよう丁寧に散布してください。</p> <p>3) 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用は避けてください。</p> <p>4) 薬剤散布の際は、収穫前日数と総使用回数を守り、天敵やミツバチに対する影響も十分考慮して、薬剤の選択を行ってください。</p>

3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	イネミズゾウムシ	平年並	やや多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(4月16日発表)によると、移植時期にあたる4月第4週から5月第1週の気温は平年並の予想(発生時期±) 2) 4月20日現在における有効積算気温(発育零点 13.8)は、11.2日度(平年 15.1日度)と低(発生時期+) 3) 予察灯(4月第1半旬～第4半旬)では、4月20日初飛来(平年5月2日初飛来)と早(発生時期-) 4) 予察灯(昨年7月第1半旬～9月第2半旬)では、誘殺数は191頭(平年163.5頭)とやや多(+) 5) 巡回調査圃場(昨年8月)では、発生圃場率15.3%(平年12.3%)と多、払い落とし虫数0.3頭(平年0.8頭)と少(±) <p>考察：今後の気象条件を重視して、発生時期は平年並、昨年の予察灯および巡回調査結果から、越冬成虫の予想発生量はやや多と考えます。</p>
コムギ	赤かび病	-	やや多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(4月16日発表)によると、開花期にあたる予報期間1週目(4月18日～24日)は、曇りや雨の日が多い(+) 2) 作況試験田(11月13日播種・品種あやひかり・松阪市)では、出穂期は4月13日(平年4月13日)と平年並(±) 3) 一般圃場では、生育の進展は、一部の播種時期の遅い圃場で遅れているが、多くの圃場では平年並(±) <p>考察：今後の気象条件、作況試験田、一般圃場の状況を重視して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	-	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(4月16日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想(±) 2) 県予察圃(4月中旬)では、新葉での初発日4月13日(平年4月18日)とやや早、発病率は0.5%(平年1.1%)とやや少(±) 3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、全調査圃場において病斑未確認で平年並に少(旧葉発病度平年0.1)(±) 4) 一般圃場では、発生量は少～平年並(概して平年並)(±) <p>考察：現状の発生量は平年並に少なく、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	かいはう病	-	温州 平年並 中晩柑 やや少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(4月16日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想(±) 2) 県予察圃(中晩柑類4月中旬)では、越冬病斑の発病葉率28.1%(9年平均31.2%)と平年並の傾向(±) 3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、温州みかんでは旧葉発病度0.1(平年0.4)と少、中晩柑類では発生圃場率83%(平年71.8%)と多いものの旧葉発病度は3.1(平年5.0)と少(-) 4) 一般圃場では、発生量は少(-) <p>考察：県予察圃、巡回調査圃および一般圃場の発生状況から、予想発生量は温州みかんでは平年並、中晩柑類ではやや少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	ミカンハダニ	-	少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4月16日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(4月中旬)では、100葉当り雌成虫寄生頭数は、無防除区 11.1頭(平年 79.1頭)とやや少、慣行防除区 0頭(平年 0.3頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、発生圃場率 15.3%(平年 40.0%)と少、旧葉寄生率 2.3%(平年 7.4%)と少、雌成虫寄生頭数 0.06頭/葉(平年 0.25頭/葉)と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察：現状の発生量は少と考えられ、大きな増加の要因はないことから、予想発生量は少と考えます。</p>
ナシ	黒星病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4月16日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、発病葉率 0%(平年 0%)と平年並に少であったが、1圃場において花そう基部への発病を確認 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや多 (+)</p> <p>考察：巡回調査、一般圃場の発生状況から、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	赤星病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4月16日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、発病葉率 0%(6年平均 0%)と平年並に少の傾向 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察：巡回調査、一般圃場の発生状況から、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ハダニ類	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4月16日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、寄生葉率 0%(7年平均 0%)と平年並に少の傾向 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少ないことから、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	アブラムシ類	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4月16日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、寄生枝率 0%(9年平均 0.3%)と少の傾向 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、平年並に少 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少ないことから、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
果樹共通	カメムシ類	-	やや多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 予察灯(御浜町4月1日～10日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ36頭(平年1.0頭)と多、ツヤアオカメムシ31頭(平年3.4頭)と多 (+) 2) 予察灯(畑・松阪市4月1日～15日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ0頭(平年0頭)、ツヤアオカメムシ0頭(平年0頭)といずれも平年並 (±) 3) 県予察圃フェロモントラップ(4月1～16日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は山地(津市白山町川口)2頭(平年3.2頭)とやや少、中間地(津市白山町二本木)2頭(平年0.6頭)と多、平坦地(松阪市嬉野川北町)0頭(平年0.2頭)と少 (-) 4) チャバネアオカメムシの越冬量は、1地点当り9.8頭(平年3.5頭)と多、クサギカメムシの越冬量は、1地点当り141.8頭(平年61.0頭)と多 (+) 5) 巡回調査圃場(4月第2週)では、カンキツ圃場への飛来は未確認 (±) 6) 一般圃場では、カンキツでツヤアオカメムシが散見 (+) <p>考察：現状の発生量は平年並ですが、越冬量が多いことから、今後の圃場への飛来数の予想発生量はやや多と考えます。</p>
	チャ	カンザワハダニ	-	やや多
	チャノホソガ	-	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(4月16日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、晴れの日が多く、気温は平年並の予想 (±) 2) 県予察圃では、萌芽日は4月5日(平年4月10日)とやや早、初飛来は3月23日(平年3月19日)とやや遅、フェロモントラップ(3月第5半旬～4月第4半旬)では誘殺数161頭(平年668.9頭)と少 (-) 3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、萌芽への産卵は未確認 (-) 4) 一般圃場では、発生量は平年並であるが、一部地域で多 (+) <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、今後の増加を考慮して予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノキイロアザミウマ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月16日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、晴れの日が多く、気温は平年並の予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(4月第1半旬～第4半旬)では、吸引粘着トラップ捕殺数 65 頭(平年 121.8 頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、叩き落とし虫数 0.2 頭(平年 2.7 頭)と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	クワシロカイガラムシ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月16日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、晴れの日が多く、気温は平年並の予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、雌成虫寄生株率 6.0%(平年 17.1%)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並であるが、一部地域でやや多 (+)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノコカクモンハマキ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月16日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、晴れの日が多く、気温は平年並の予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(4月第1～第4半旬)では、誘殺数 70 頭(平年 73.6 頭)と平年並 (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、ハマキムシ類巻葉数 0.2 枚/m²(平年 0.4 枚/m²)とやや少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、ハマキムシ類の発生量はやや多 (+)</p> <p>考察：一般圃場の状況を重視して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
イチゴ	ハダニ類	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月16日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、寄生株率 4.0%(平年 15.5%)と少、寄生程度 1.8%(平年 8.3%)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～やや多(概してやや多) (+)</p> <p>考察：一般圃場での状況を重視して、現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期(平年比)： 平年の発生日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価	早	やや早		平年並				やや遅		遅				

発生量(平年比)： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

			平年値 ↓			
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並	やや多	多	

発生量(程度)： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比

べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率(平年比)： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス 「カンキツの黒点病について」

◆被害の様子◆

黒点病は病原菌がカンキツに感染した際に組織の表面に黒点状の病斑をつくる病気です。通常は散在した小さな黒点状の病斑ですが、ひどい場合は涙斑状や泥塊状の病斑をつくります。葉や枝にも発生しますが、特に果実に発生した場合は著しく商品価値を下げます。(図1、図2)



図1 果実の病斑



図2 葉の病斑

(三重県農業研究所紀南果樹研究室原図)

◆伝染の経路◆

黒点病菌は枯枝で越冬します。枯枝上で形成された胞子が雨滴により若葉や新梢・果実に伝搬され、気温 20～27℃で感染します。

本病の部位別の発生時期は表1のとおりです。

表1 黒点病の発生時期

部 位	初発期	最盛期	終期
葉	5月中旬	6月中旬	7月下旬
果 実	6月上旬	7月～8月	10月下旬

また、病原菌は樹冠内や落ちていた枯枝にも感染し、次の感染への温床となります。(図3)

黒点上で胞子につくられないので、葉や果実の黒点からの二次感染はありません。



図3 樹冠内の枯枝

◆防除対策(防除のポイント)◆

- 1) 枯枝・剪定枝が主な感染源です。樹冠内や圃場内の枯枝切りを徹底し、剪定枝とともに除去してください。
- 2) 薬剤散布時期は5月中旬～6月上旬、6月下旬～7月上旬、7月中下旬、8月中下旬です。
- 3) 2回目以降の薬剤散布は、前回散布後30日または散布後の積算降水量が200mm～300mmに達した時を目安に行ってください。

6. 気象のデータ

東海地方1か月予報(平成27年4月16日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう1か月は、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。週別の気温は、1週目2週目とも平年並の確率50%です。

1週目 4月18日～24日	高気圧に覆われて晴れる日もありますが、気圧の谷や湿った気流の影響で雲が広がりやすく雨の降る日があるでしょう。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 2.1日・4.3日
2週目 4月25日～5月1日	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	同 2.1日・4.3日
3～4週目 5月2日～15日	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	同 4.7日・7.8日

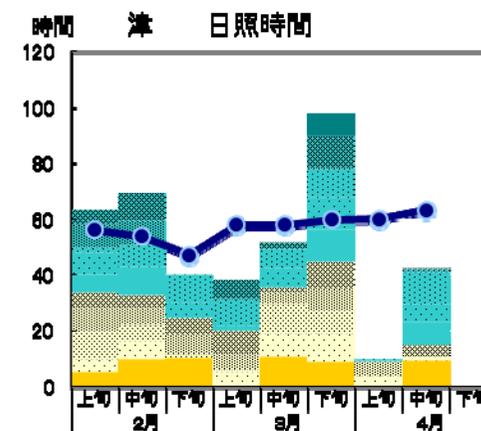
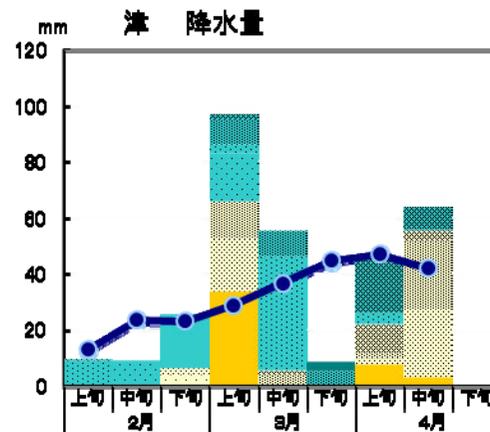
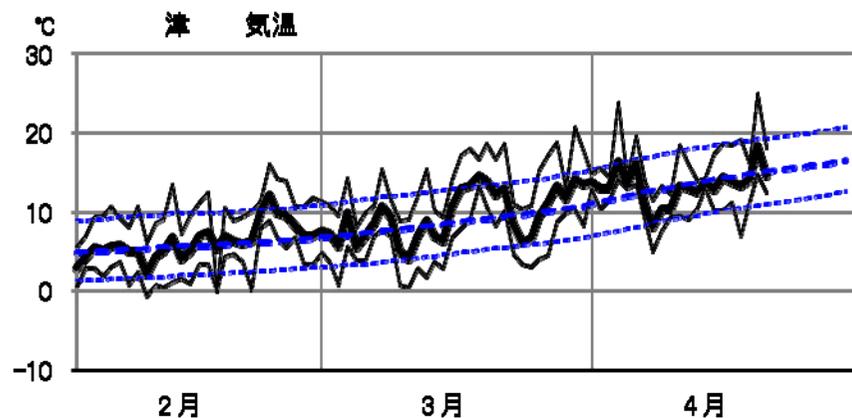
東海地方週間天気予報(平成27年4月22日10時30分 名古屋地方気象台発表)

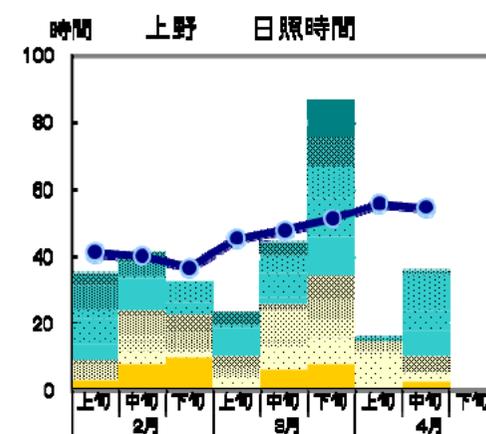
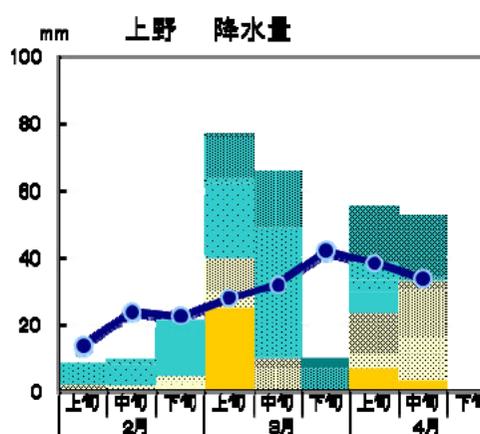
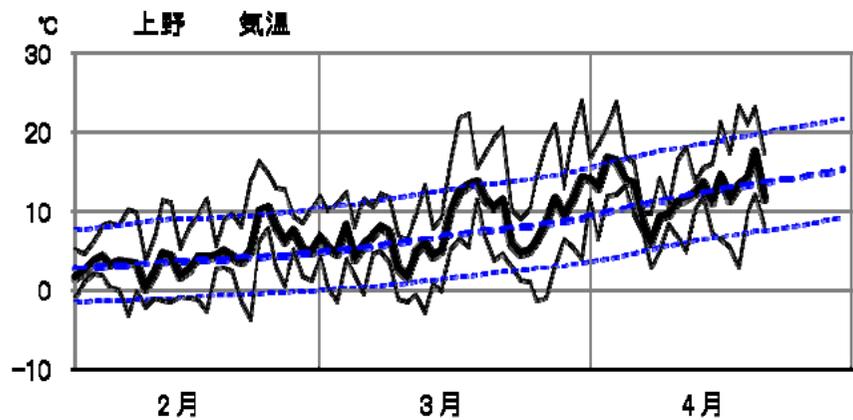
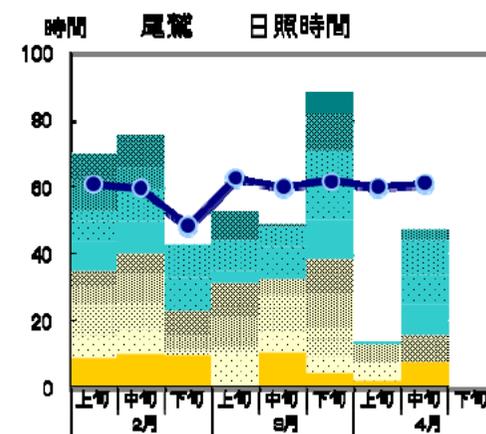
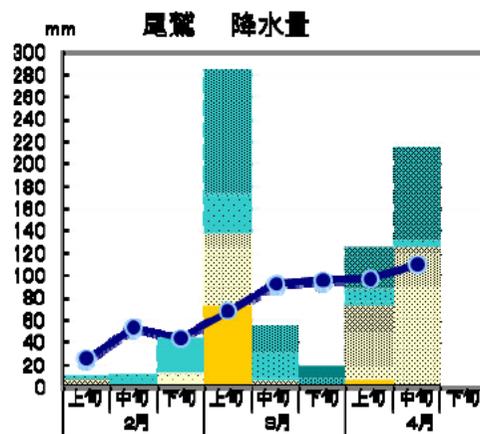
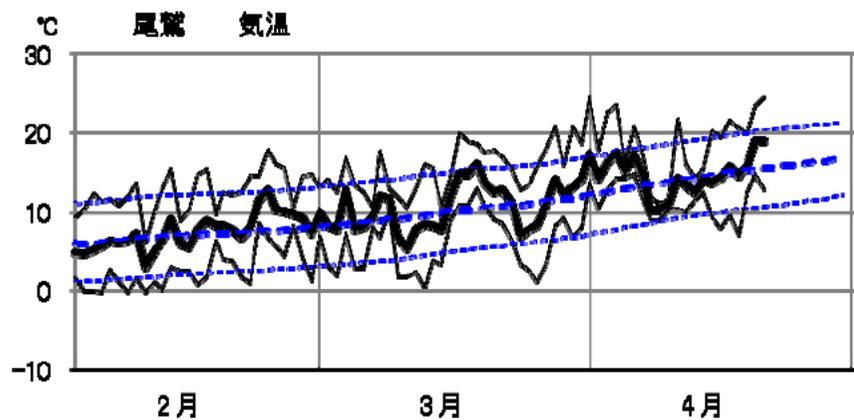
予報期間 4月23日～4月29日

向こう一週間は、期間の前半は高気圧に覆われて晴れますが、後半は気圧の谷や湿った気流の影響で雲が広がりやすいでしょう。

最高気温と最低気温はともに、平年並か平年より高い見込みです。降水量は、平年より少ないでしょう。

気象の日別推移(気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (4月21日まで)





- 凡例
- 平均
 - 最高
 - 最低
 - - - 平年平均
 - - - 平年最高
 - - - 平年最低

- 凡例
- 31日
 - 旬10日目
 - 旬9日目
 - 旬8日目
 - 旬7日目
 - 旬6日目
 - 旬5日目
 - 旬4日目
 - 旬3日目
 - 旬2日目
 - 旬1日目
 - 旬平年値

- 凡例
- 31日
 - 旬10日目
 - 旬9日目
 - 旬8日目
 - 旬7日目
 - 旬6日目
 - 旬5日目
 - 旬4日目
 - 旬3日目
 - 旬2日目
 - 旬1日目
 - 旬平年値

7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

- | | |
|---------------|---------------|
| 第1回 4月23日(今回) | 第2回 5月28日(木) |
| 第3回 6月25日(木) | 第4回 7月23日(木) |
| 第5回 8月27日(木) | 第6回 10月22日(木) |
| 第7回 3月24日(木) | |

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書 **NEW**

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアド

レスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h26yohotebiki_.pdf

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

7) IPM(総合的病害虫・雑草管理)実践指標について

三重県では IPM を実践する上で必要な農作業の具体的な取組内容を示した作物別の指標を公表しています。農業者の皆さんの取組について、現状把握と今後の気づきにご活用ください。病害虫防除所ホームページにリンクを設定しています。

三重県農林水産部農産物安全課ホームページ内

<http://www.pref.mie.lg.jp/NOAN/HP/work/ipm/main.htm>